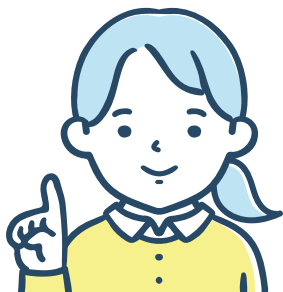


令和3年度

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業（WAM助成）



多様な困難をもつ子どもへの
寄り添いとその支援力向上を図る事業

活動報告書

2021

もくじ



子どもの安心を支えよう

- ・ 私たちの活動から見てきたこと P3

section 1

浜松市の多様な子どもたち

- ・ 浜松市の多様な子どもたちのための学習支援環境 P4
- ・ 「N-Pocketの訪問型学習支援」 P5

section 2

研修会紹介

- ・ 子どもの凸凹に寄り添える人になろう「研修と交流会」 P6
- ・ 子どもの多様性×デジタル機器 その1 P7
- ・ 子どもの多様性×デジタル機器 その2 P8
- ・ 感覚統合&ライフステージ P9
- ・ 多様な性ってなんだろう？ P10

section 3

報告会

- ・ 報告会「子どもの安心を支えよう！」 P11

section 4

団体紹介

- ・ 子ども支援団体 × きらきらBOX P14
- ・ 認定NPO法人浜松NPOネットワークセンター（N-Pocket） P15
- ・ 一般社団法人里山題楽校 P16
- ・ 浜松学院大学 スマイルスポーツクラブ P17
- ・ アクティブ P18
- ・ NPO法人ドリーム・フィールド P19
- ・ NPO法人ラブ・ネイチャーズ P20
- ・ 株式会社コンテ P22
- ・ 一般社団法人学而会 学びのいろは P23
- ・ KSC 子どもサポーターズクラブ P24
- ・ 地域支援団体はまはっぴー P25
- ・ 浜松ひよっこシェアリングネイチャーの会 P26
- ・ えほん文庫 P27



子どもの安心を支えよう!

責任ある大人たちが繋がって、子どもたちが自分の想いを安心して伝えられる
社会、安心して居ることができる社会をつくっていきたい。



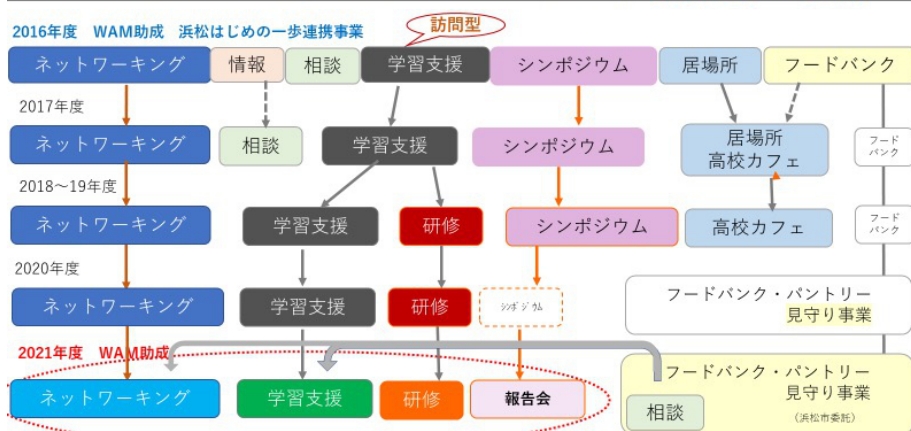
私たちの活動から 見えてきたこと

2016年度に行った「貧困の子ども支援浜松はじめの一步連携事業」※の支援ネットワークの成果を活用しつつ、訪問型学習支援を続ける中、経済的困窮だけでなく様々な困難、特に愛着障害、外国ルーツの子ども達の言葉の問題に由来するの、手帳を持たないレベルの知的や精神、発達障害の疑いがある子ども・若者の姿が浮かび上がってきました。そして学校に行けなくなっていた子どもたちとも多く出会いました。

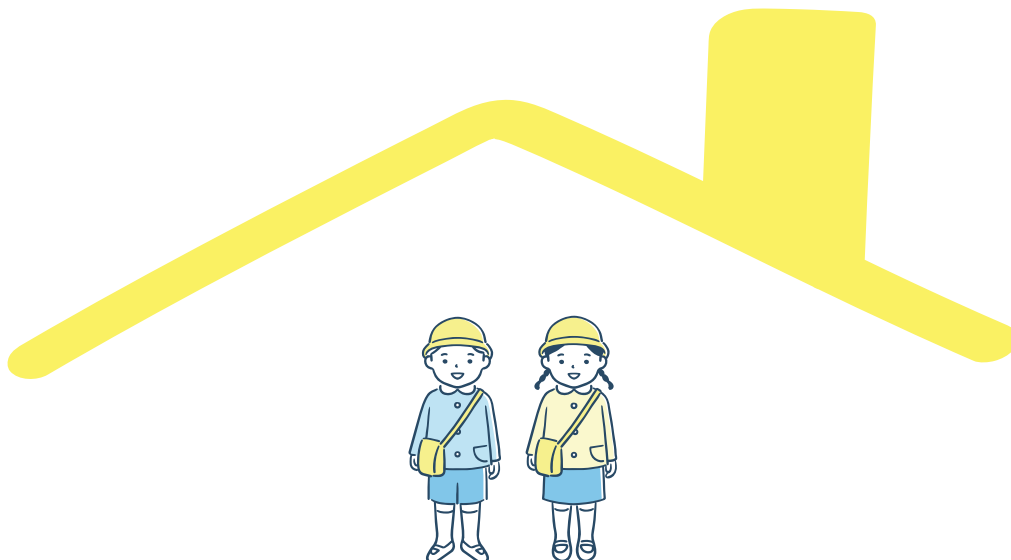
※「貧困の子ども支援浜松はじめの一步連携事業（WAM助成事業）」とそれ以後の活動内容

子どもの生活や活動範囲に合わせた、多様で総合的に行える環境作りの必要性を感じ、WAM助成金を得て、複数の団体に呼びかけ2016年度から「子どもの貧困浜松はじめの一步連携事業」を開始した。連携事業では、相談事業、学習支援、居場所づくり、フードバンクのパイロット事業を組み合わせた。その後6年間、訪問型の学習支援を核にして、子どもたちの困難を支えようと中間支援NPOの強みを生かし、他団体とネットワークしながら活動を進めた。

2016年度～2021年度事業概要 子どもの貧困 ➡ 多様な子ども支援



直接支援と中間支援（ネットワーク、支援者支援、提言）を組み合わせる 資金源：助成金・寄付金・ボラ活動



浜松市の多様な子どもたちのための学習支援環境は？

困窮世帯の子どもたち

浜松市の生活困窮群9.3%のうち約8割が身近な場所での学習支援を希望しており、2021年度現在、市では学生、教員OB等のボランティアによる学習支援を行っていますが、対象は小学4年から中学3年までの子どもとしており、市内21会場で開く拠点型の教室になっています。

外国ルーツの子どもたち

浜松市は在住外国人が多く、浜松市もNPOも外国ルーツの子ども達の学習を先駆的な動きをもって支援してきました。しかしながら、言葉の問題だけでなく、ヤングケアラーの状況にある子どもや発達障害、愛着障害の疑いがある子どもたちもあり、その多様さにケアが追いついていない現実もあります。

発達障害の子どもたち

浜松市では、比較的早くから発達に関わる専門機関が用意されており、相談支援については比較的恵まれた環境だと言えます。では、そうした子どものための教育環境はどうかというと、発達支援学級（特別支援学級）や特別支援学校の進路保障については課題が残りますが、デジタルツール等の導入など随分工夫がされるようになりました。しかし、通常級にいる様々な困難を抱えた子どものための合理的配慮は他の子どもと公平にしたいという理由で進められずにいることも少なくなく、傷ついた子どもたちが学校にいけなくなる状況もあります。



子どもの自尊感情を育もう

「N-Pocketの訪問型学習支援」

就学前から20歳までの多様な困難（障害、ひきこもり、不登校、外国ルーツ、経済的貧困）を抱える子ども若者を対象にし、個々の子どもがもつ課題に対して対応しやすいように、基本的に子どもの自宅または近隣の公共施設を学習室とし、ある程度の専門性や経験値の高い講師による訪問型学習支援を実施しました。また、別の事業で行っているフードバンクで手に入る食料品も経済的な貧困である家庭に持っていったりすることも多々あります。

こんなことあったんです・・・

- ・ **外国ルーツの子どもが特別枠で高校に入ったのに、そのサポートがないから学校やめてしまった。**
やさしい日本語やICT機器等を利用した多言語でのコミュニケーションが可能な教育環境を用意してあるといいのにね。
- ・ **集中して学習する場所と時間ができたら、外国ルーツの子どもが猛然と勉強し始めた。**
保護者が日本の教育文化がよくわかっていないため、こどもの学習環境が整えられていなかった。
相互に異文化理解と学校生活のサポートが必要だね。
- ・ **お母さんに障害がある母子家庭。弟妹の見守りがあって、学校にあまり行けていなかった。**
家庭内で支え合うのは大事ですが、家庭で何かが起こって、小さな子どもがその家庭の難儀を一手に背負わなければならないとき、社会的にサポートする仕組みはあるのでしょうか。
- ・ **安易にお休みしてしまう。**
無料の学習支援って難しい。欲しいもの必要なものがなんでも簡単に手に入る環境って、考えてしまいます。
- ・ **父親が病気、父母は不仲、家庭は子どもが安心して居られる場所ではなく、スクールソーシャルワーカーが心配して、居場所としての学習支援を始めた。**
決まった時間、決まった場所に約束通り、という仕組みはこうした子ども向きではないと思いました。
いつでも好きなときに行ってもよい安心の居場所があるところにあるといいね。
- ・ **外国ルーツの子ども達と講師が、Bellsというアナログゲームを一緒に楽しんだとき、一人の子が色弱であることがわかりました。**
アナログゲームって講師と生徒の距離を縮めることができるのでときどき活用しますが、ゲームで遊ぶ子どもの姿から学習支援の入り口だけだと見えなかったことがみえます。

学習支援事業規模（2021年4月～2022年2月）

・ サポートした子どもの数 22人（小1～高3） ・ 支援回数 276.75時間（242回） ・ 講師人数 11人



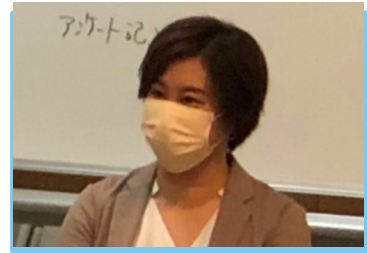
SECTION 2
研修会紹介
01

事例で学ぶ発達のも様性 子どもの凸凹に寄り添う学習支援 子どもの凸凹に寄り添える人になろう 研修と交流の会

困り感のも様性って？

子どもの発達のも様性、脳のお癖による行動への理解、教育現場で問題されている行動の背景やその改善方法を、事例を取り入れながら説明を受けることで、理解を深める。子どもの発達等個々の適性等を踏まえたうえで、視点や心配り、声掛け等を知ることで支援技術の向上をはかる。

これらの目的のために以下のセミナーを開催し、後半では、参加者同士で日々の課題やそれに対する想いや対応方法等の情報を共有や意見交換を行い、ネットワーク作りのきっかけづくりとしました。



講師の 澳塩 渚さん

こんな話でした

- ・音読を嫌がる子は、視覚情報から聴覚情報へ変換に時間がかかります。スラッシュをいれたりして、目で見て読みやすい形にするといいですね。でも一人ひとり違います。
- ・道具箱が散らかっている子は、準備の計画がしにくく、順序がバラバラになってしまっているので、片付けや準備の手順を決めておくとか、便利ツールやアプリでサポートするといいですね。でも、一人ひとり違います。

イベント情報

- ・講演名 : 事例で学ぶ発達のも様性・子どもの凸凹に寄り添う学習支援
- ・講師 : 澳塩渚さん(臨床心理士/公認心理師/学習支援教室「まなびルームポラリス」)
- ・実施日時 : 2021年7月25日(日) 13:00~15:30
- ・会場 : 浜松市市民協働センター
- ・参加者数 : 12名



事例で学ぶ 発達のも様性
まなびルーム
**子どもの凸凹に寄り添う
学習支援**

発達のも様性から読みとらえ、困っている子どもが多いといわれます。その対応には100人100様です。様々な事例を知ることで、『困っているつもり？』『そうだったのか！』のヒントになります。

日時 2021年 7月25日(日)
 開講 13:00 ~ 14:30
 参加者交流会 14:30 ~ 15:30
 ※参加のネットワークづくりは目的別の交流会です

場 所 浜松市市民協働センター 第1,2会議室
 対象 子ども支援関係者、学校関係者、保護者
 定 員 15名

【申し込み】 浜松 NPO ネットワークセンター
 Tel/Fax: 053-445-3717
 Mail: info@npo-net.or.jp
 ①氏名 ②住所 ③連絡先(電話番号 メールアドレス)
 ④所属 ⑤参加理由の欄がなければご記入ください
 ※ZOOMへの参加費は別途の参加費がかかります

講師の紹介 渚 渚(あき)さん 66歳です。臨床心理士、公認心理師、学習支援教室「まなびルームポラリス」の講師です。発達のも様性から読みとらえ、困っている子どもが多いといわれます。その対応には100人100様です。様々な事例を知ることで、『困っているつもり？』『そうだったのか！』のヒントになります。

公益財団法人 公益社団法人 公益社団法人 NPO ネットワークセンター (NPO) 事務局 浜松市市民協働センター 事務局

イベントチラシ

参加者の声

our voice



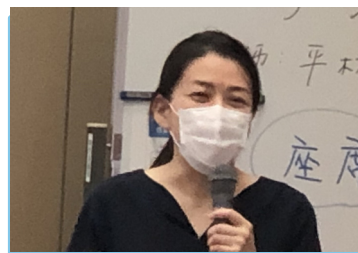
- ・誰でも凸凹を持っているというのはとても実感できました。行動だけでなく背景を見てあげるのが大切だと感じました。
- ・鉛筆をかじるもなつかしい子どもの表れでしたが、音韻認識もなつかしい思いがしました。覚醒水準も自分が落書きをして「はっ」としました。
- ・計画・目標をたてるのが苦手な子のフォローの仕方を考えたいと思いました。
- ・お母さんや子どもさんの気持ちによりそう支援者・理解者が親子のまわりにもっといることが必要だと思いました。

子どもの多様性×デジタル機器 その1



デジタル機器の有効性を知る

子ども支援者が子どもの凸凹への対応として、デジタル機器の有効性を知る。デジタル機器を使う際の、寄り添いのための視点や声かけ等、心配りを理解する。知っておくと良いグッズやアプリ等、子どもに有効と思われる情報の共有。これらの目的のために以下のセミナーを開催し、セミナー後、ネットワークづくりのきっかけとなるよう、子ども支援者、保護者等の情報交換をしました。



講師の平林ルミさん

こんな話でした

- ・読み書きが難しいって、全く「読めない」「書けない」ではなくて、うまくできなくて疲れるのでたくさん早くこなせないってことです。
- ・読み書き困難は情報へのアクセス障害だから紙と鉛筆以外の筆記用具が必要となることもあるんですよ。それをデジタル機器で補うことができます。
- ・iPadやアプリ等について、有効とおもわれる情報を収集し、環境を整えてからその使用を提案するといいですよ。

イベント情報

- ・講演名 : もう悩まない、「子どもの苦手感」をデジタル機器で解決
- ・講師 : 平林ルミさん (特別支援教育士スーパーバイザー、学びプラネット合同会社)
- ・実施日時 : 2021年10月24日 (日) 13:00~15:30
- ・会場 : クリエイトはままつ
- ・参加者数 : 23名



イベントチラシ

参加者の声

our voice



- ・学び方の多様性があること、そのためにデジタル機器がとても有効だと感じました。
- ・読み書き障害のある子には、デジタル機器は合理的配慮の下、必要不可欠なツールだと分かりました。ただ、一般的には、まだまだ理解が得られないし、教育現場でも実現が難しいと感じています。
- ・聞いたことがあるだけのアプリの使い方を知ることができて良かった。
- ・私の子どもは自分で本を読むのは嫌がるので私が本を読んであげることが多いのですが、デージーがあればもっと本に親しむことができるなと思いました。
- ・子どもにアセスメントは必要。細かく指示するのではなく、子どもがやりやすい方法を選ぶことができるということがとても印象に残りました。



子どもの困り感をアプリで解決

子どもの生活における困った感を理解する。ひとりで生きるチカラをつける為のきっかけづくりとしてアプリ活用を考える。個々にあった適切な寄り添いの為の視点や声かけ等心配りを理解する。知っておくと良いグッズやアプリ等、子どもに有効と思われる情報の共有。これらの目的のために以下のセミナーを開催し、セミナー後、ネットワークづくりのきっかけとなるよう、子ども支援者、保護者等の情報交換をしました。

こんな話でした

- ・同じ人種でも家族でも一人ひとり神経の作りは違います。みんなもともと違うんです。
- ・行き当たりばったりになる子は、失敗が多くて成功体験が少ないからやる気が低下してしまいます。学校生活で「学習計画がたてられない」「提出物の管理が出来ない」「勉強するのが嫌になる」とか悩んでしまいますが、脳機能の苦手ジャンルをアプリにしてもらおうといいですね
- ・アプリを選ぶときはね、操作が簡単で、直感的なアイコンが使っていて、更新がこまめで、オフラインでも使えるものを選ぶといいですよ。

イベント情報

- ・講演名 : アプリで体験できる! 子どもの適切な寄り添い方
- ・講師 : 澳塩渚さん
(臨床心理士/学習支援教室「まなびルームポラリス」)
- ・実施日時 : 2021年11月28日(日) 13:00~15:30
- ・場所 : 浜松市民協働センター
- ・参加者数 : 12名

参加者の声

our voice

- ・アプリを自分の行動や特性の助けにする、できることを改めて知ることができた。
- ・アプリを未だ利用していなかったが、予想以上に生活を便利にし、ストレス軽減できるツールになりそうで期待感が高まりました。
- ・アプリを複数使うことや、記録して傾向をみることも大切だと思いました。
- ・アプリといっても、音声を使ったり、いろんなアイデアをいただきました。
- ・手助けになるアプリ、サイトなどたくさんあることを知りました。子どもが自分で管理できるようになり、自立につながっていくといいなと思いました。



講師の澳塩渚さん



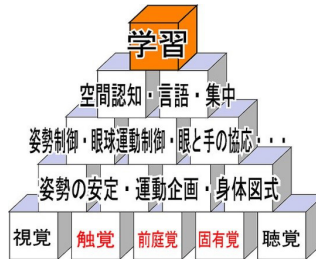
イベントチラシ





感覚統合的視点から見る

子どもの困った感を、感覚統合的視点から理解する。有効な対応方法が、個々の子どもで違うことを知る。子どものライフステージごとに、有効な支援方法を知る。これらの目的のために以下のセミナーを開催しました。



講師の茂木厚子さん

こんな話でした

- ・「じっと椅子に座れない」「集中して話が聞けない」「行事に参加できない」等、困った行動という『結果』ではなく、苦手さや拘りという行動の『原因』に着目してくださいね。
- ・子どもと大人の思う困った感が一緒とは限りません。大人は、子どもの困った感を正しく知った上で対応を一緒に考えることが必要ですね。
- ・発達段階には順序があって、その土台は五感で、五感の発達には経験が必要で、遊びの多くがその経験になります。
- ・感覚統合の順序をまちがえて勉強！勉強ってというのは穴の空いたバケツに水を灌ぐようなものですよ。子どもも苦しいですよ。

イベント情報

- ・講演名 : 子どもの「困った」には理由がある
- ・講師 : 茂木厚子さん（発達支援「Kids Sense」）
- ・実施日時 : 2021年12月19日（日）13:00~15:30
- ・実施場所 : オンライン（ZOOM）
- ・参加者数 : 19名



イベントチラシ

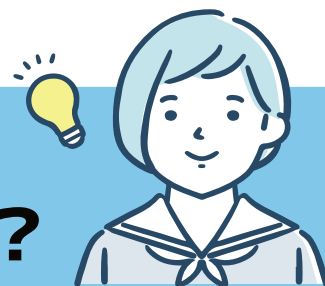
参加者の声

our voice



- ・心地よい安心の中でしか脳の発達も学びも起こらない、ということが印象的であり、いつも心に留めておきたいと思いました。
- ・アタッチメントの話が印象に残りました。意識したいと思います。
- ・自発的な遊びが脳を育てる。子どもとワクワクするような日々を送っていきたくと思った。
- ・「問題行動」というものは無い。大人がそう見ているだけ。その理解だけでも救われる子どもがたくさんいると思いました。
- ・「ふつう」という概念を大人が捨てることや、子どもは教え込まなくても自ら発達するのだという大きな信頼をすることの大切さ。そして今は未発達なのだからと、感覚統合の視点からその子の特性を理解し、温かく見守ってあげるなど、多くの大人に知ってほしい内容だなと思いました。

多様な性ってなんだろう？



子どもの「多様性」とは？

子どもの「多様性」について考える。「困り感」をもっている子どもが他人からの無意識な言葉や態度に傷つくことがあることの認識をもつこと。子ども支援者等に必要心構え、声のかけ方、配慮すべきことについて知っておくと良い情報等を共有すること。これらの目的のために以下のセミナーを開催しました。

こんな話でした

- ・相手に接するときは、性の多様性についても想定して、話をしたり対応する心構えが必要だね。
- ・性の捉え方はほんとに多種多様。例えば「男性として生まれたけど、自分の性をどのように意識していいかわからない」こともあるんです。
- ・中学校に制服のきまり事などについてアンケートしたら、問題意識が芽生え校則を変えたところもあったけど、その作業を学校側だけで行っていたんだ。まず当事者に聞いて、当事者と話して、なんだけどね。
- ・あなたはどうしたいのという問いの大切さ、もっと意識したいね。



イベント情報

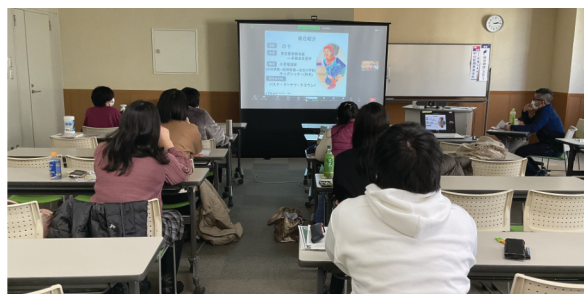
- ・講演名 : 多様な性ってなんだろう？
- ・講師 : 篠崎のりさん (認定NPO法人ReBit)
鈴木げんさん (浜松TG研究会)
- ・実施日時 : 2022年2月6日 (日) 13:00~15:30
- ・実施場所 : 浜松市市民協働センター及びオンライン (ハイブリッド型)
- ・参加者数 : 23名



イベントチラシ

参加者の声

our voice



- ・LGBTという言葉ではあらわしきれない多様な状態があることがわかった。まさにレインボー。
- ・未だに自分でも考え続ける性を持つ人もいるのだと知って、みんなグラデーションなのだとおもいました。
- ・カミングアウトに対し「打ち明けてくれてありがとう」「気づかずに傷つけていたことはなかった？」との言葉が心に残りました。
- ・「大人が決めつけない」「子どもに選ばせる」という言葉は本当に重みがありました。根拠や理由をわかりやすい言葉で、相手に「伝えること」を意識して話をされているのだらうと思いました。
- ・学校や教育の場に注がれる期待を教職員はパワーに変えなければ。
- ・子どもがどう生きたいか自分で決められる環境作りを私たち大人がしているのだろうか。



報告会

子どもの安心を支えよう!



子どもが育つ環境を支える

2016年度から子どもの貧困をテーマに支援ネットを構築してきており、訪問型学習支援を中心にしながら子どもたちに関わってきました。そして、外国ルーツや、手帳を持たないレベルの知的や精神、発達障害の疑いのある子ども・若者たちに出会いました。こうした子どもたちの不登校率は高く、その背景として子どもたちの育ちの環境がとても貧困であることが浮かび上がってきました。これらの活動を報告しながら、責任ある大人として子どもの安心を支えていける社会づくりを呼びかけました。

WAM事業報告会 「子どもの安心を支えよう」



イベント情報

- ・講演名 : WAM事業報告会「子どもの安心を支えよう！」
- ・実施日時 : 2022年2月23日(日) 10:00~12:30
- ・実施場所 : オンライン (ZOOM)
- ・参加者数 : 41名

■第1部 基調講演

「不登校など傷ついた子は、どうしたら回復するか」

講師：石井志昂さん（不登校新聞編集長、不登校経験者）

・なぜ学校から遠ざかるのか。不登校になってからでなく「その前に傷ついている」ということに着目しよう。でもいろんなことが重なって本人でもうまく説明できない。言語化が十分できなくて、とりあえず言えることを言ってしまうのかも、と想像しておこう。

・不登校になった子どもを見てよく聞かれることはひきこもりのこと、勉強のこと、社会性のこと。不登校に限らず心が傷ついた子どもの「心が回復するまでの地図（心療内科医 明橋大二）」がある。①学校に行こうとすると頭痛が、などという身体症状は回復の一步。②イライラしたり赤ちゃん返りのようになったりする感情の噴出が起こる。③辛かったこと、やりたいこと、いろんなことを言語化して話しまくるけど、気持ちの整理をつけるためだから周りのものはひたすら聞いてあげることが大事。④暇だ！と言い出したら、それは自分でやっていこうとする親離れの表れ。①から④が順序良く表れないで行ったり来たりするが、会話が、注意にならないよう雑談を大事にしよう。

■第2部

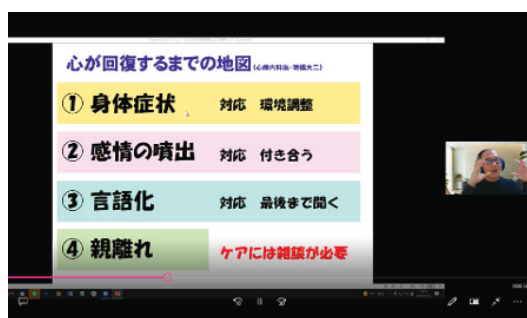
《N-Pocketの取り組み》 浜松NPOネットワークセンター代表理事
《シンポジウム》 「こどもの安心を支えるために」

登壇者① 鈴木浩之さん（一般社団法人 里山題案校 代表）
天竜の自然を生かし、不登校等に悩む子どもの学習支援を行うフリースクールを運営する。

・集落での毎日の暮らしの中に楽校がある。「何をやりたい？」と聞くと「わからない」と答えるので、自然と心が向くよう問いかけを心がける。耕運機やなた、鍬を使ったことがない子どもたちに、使い方さえ教えていけば、実践を重ねることで多様な学びへ繋がっていく。野菜嫌いの子どもが自分たちの育てた野菜なら食べるようになるし、集落のじいじばあばの存在が子どもたちの成長を自然に促している。



イベントチラシ



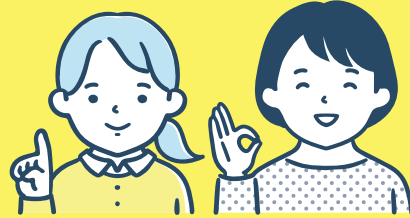
イベント様子その①

井ノ上美津恵



子ども支援団体×きらきらBOX 子ども支援団体の紹介

<https://kirakira.n-pocket.com/>



at きらきらBOX

子どもの安心を支えるため、子ども支援団体やスクールソーシャルワーカー等、違うステージでの支援ニーズに応える目的で中間支援NPOとしての強みを生かし、浜松市内に拠点を置く子ども支援団体やIT支援団体、障がいや外国人当事者団体など多様な社会資源を訪問し、得られた情報を市民活動団体紹介サイト

「はままつ市民の力きらきらBOX」

(<https://kirakira.n-pocket.com/>) に掲載しました。



認定NPO法人 浜松NPOネットワークセンター (エヌポケット)

こうなったらいいな、を事業に変えて動き出す！

一般社団法人 里山題案校

集落が“楽”校（がっこう）

浜松学院大学 スマイルスポーツクラブ

放課後の外遊びを通して自分自身を表現できる場

アクティブ

子どものこと・学校のこと・地域のこと、考える・行動する・解決する会

NPO法人 ドリームフィールド

のんびり、ゆったり、自分のペースで共に育つ場

NPO法人 ラブ・ネイチャーズ

自然に寄り添い、守り、育て方

株式会社 コンテ

自分らしさを創造し、幸せな人生をおくることができる社会の実現を目指す

一般社団法人 学会会

フィット感が得られる子どもの未来のために

KSC子どもサポーターズクラブ

外国ルーツの子ども達 学習応援隊

地域支援団体はまはっぴい

家族の“えん”をつなぐ

浜松ひよっこシェアリングネイチャーの会

誰でも気軽に参加し、ネイチャーゲームを楽しめる会です

えほん文庫

絵本を中心とした地域の交流の場



SECTION 4

団体紹介

01

こうなったらいいな、を事業に変えて動き出す！

認定NPO法人

浜松NPOネットワークセンター(N-Pocket)

多様な人々が社会参加する「ソーシャル・インクルージョン」で、共に支えあい、誰もが積極的に生きられる社会を目指します。



<https://kirakira.n-pocket.com/>

「こうなったらいいな」という思いや課題解決の様々な方法が集まり、地域や分野を越えた市民の活動を支えると共に、企業や行政とのパートナーシップをつくり、新しい市民社会を実現していきます。

●はじめは。。。

1997年3月の「情報公開条例を市民の手に」の開催をきっかけに、同年11月に「浜松地域活動ネットワークセンター」を設立。鴨江に共同事務所を開設して中間支援NPOとして、様々な市民団体の交流拠点をめざしました。1998年4月に「浜松NPOネットワークセンター」（愛称N-Pocket エヌポケット）と改称し、環境や福祉分野の市民団体に携わる12人が発起人となって、設立総会を開きました。2000年に法人格を取得し、中間支援組織としての活動を本格化しました。

課題解決のために様々な事業をすすめる中で、障害のある人や多文化な若者たちと出会い、ソーシャルインクルージョン「誰をも排除しない社会づくり」を具現化するため、中間支援NPO（市民活動支援）としての活動だけでなく現場での活動（多様な人々の社会参加支援）も増えていきました。2015年8月に認定NPO法人に認定されました。

●こんな思いでやっています

「こうなったらいいな…」という市民の夢や思いは、共通の志を抱く人々と出会うことによって社会的な力に育ちます。自分たちの責任で住みやすい地域社会に変えていこうという基本姿勢を、学びながら交流することで、「人もまちも」成長していくからです。

N-Pocketにいつぱいつまった夢や思いを、「つなぎ・しらべ・しらせ・ささえ・そだてる」市民による共同事務所・シンクタンクとして、地域や分野を越えた市民の活動をもっと元気に、幸せな社会作りを、多くの人と共に進めていきたいと考えています。

●こんな活動をしています

1. 市民活動支援

共同事務所運営、セミナー・講座の開催、インターンシップの受け入れ、情報収集・提供、地域資源の調査・開拓、提言活動などを行っています。

2. 多様な人々の社会参加支援

1) 障害のある人

静岡県の「ジョブコーチ派遣」「ジョブコーチ養成講座」、国の障害者職業センターのジョブコーチ事業などを通じて、障害のある人の職場定着を支援します。

2) ICTによる社会参加

障害者の在宅パソコン講習や、バーチャル工房で、ICTを活用して障害や難病を持つ人のコミュニケーションや社会参加を支援しています。

3) 子ども

外国ルーツの子どもたちが、日本できちんと教育を受け、進路を切り拓けるよう、多言語による「高校進学ガイドブック静岡県版」やWebサイト「外国をルーツとする子どものための教育支援情報倉庫」を作ってきましたが、2016年からは子どもの貧困についてネットワークを組み、学習支援や居場所づくり、研修などに取り組みました。これらは現在、多様な子どもたちの育ち「子どもの安心を支えよう」活動に繋がっています。

4) 環境・地域の自立

市民協働の公園づくりなど、環境・まちづくりに関する活動を支援しています。



事業を通じた市民活動支援

BREAK TIME

N-Pocketでは直接的な市民活動支援の他に、具体的な社会の課題を解決する事業を数多く行っています。当事者や支援者、関係団体、行政、大学研究機関など様々な関係者を集めたプラットフォームをつくり、事業を通して市民活動団体の支援も行っています。

●委託事業、補助金・助成金事業など

▶WAM(2021年)「多様な困難をもつ子どもへの寄り添いとその支援力向上を図る事業」(はじめの一歩連携事業)

▶静岡県:ジョブコーチ派遣事業(2001年~現在)、ジョブコーチ養成事業(2010年より現在)、西部障害者マルチメディア情報センター管理運営事業(2001~2014年)、障害者在宅パソコン講座事業(2003~現在)、

▶浜松市:都市公園市民協働支援事業(2019年~現在)

●参加するには。。。

- ・イベントに参加する
- ・賛助会員になって活動を支援する
- ・会員となってニュースレターを購読する
- ・セミナーやイベントに参加する
- ・ボランティアをする

イベントのお手伝い、印刷・発送作業、データ入力、ホームページ更新、チラシ編集など

団体からのメッセージ

当事者自身が問題提起をし、市民とともに課題解決することができる自立した社会をめざしてつながりあおう。こうなったらいいな～という思いを言葉にしよう。社会を変える一歩を自ら踏み出してみませんか。

●こんな団体です

活動分野 | 福祉、社会教育、まちづくり（ユニバーサルデザイン）、環境、国際協力（多文化共生）、子どもの健全育成、情報化社会の発展、職業能力開発、雇用機会、市民活動支援
活動対象 | 子ども、青少年、高齢者、障害のある人、在住外国人、一般

活動地域 | 静岡県

設立年 | 1998年（2000年法人化）

会員構成 | 個人正会員36名、団体正会員15名、個人賛助会員75名、団体賛助会員17名

会費 | 個人 正会員4,000円/年、賛助会員3,000円/年・口
団体 正会員6,000円/年、賛助会員5,000円/年・口

運営スタッフ | 非常勤 9名

総事業支出額 |

54,511,438円（'20年度）

55,795,786円（'19年度）

56,370,130円（'18年度）

代表者名 | 井ノ上 美津恵（いのうえ みつえ）

連絡先 |

住所 : 〒432-8021浜松市中区佐鳴台3-52-23
ハルカムビル2F

TEL&FAX : 053-445-3717 **E-mail** : info@n-pocket.jp

ホームページ : <https://www.n-pocket.jp/>

ブログ : <https://blog.canpan.info/n-pocket/>

Twitter : @N_Pocket

SECTION 4 集落が“楽”校（がっこう）

団体紹介 一般社団法人

02 里山題楽校

里山集落で学習支援や体験・実習を行うフリースクール



<https://kirakira.n-pocket.com/satoyamadaigaku/>



●はじめは。。。

野外活動やテレビ番組等を観て、造られた環境ではなく自然のありのままの環境下で活動することで生き生きとした「目」「声の大きさ」「発想」が豊かに滲み出るようになり、不登校等で気持ちの面で沈みがちな時でも、ゆったりした里山集落の環境の中で活動することで、癒しや体力面での維持向上、自信につながるきっかけづくりの場となればと思い開校しました。

●こんな思いでやっています

「まずは、やってみなければ分からない」をベースに様々な活動を行っています。無農薬での野菜類の栽培や創作活動、自然遊びなども行っています。挑戦や発見なども含め、新たな視点を持つことで視野が広がり、今よりも一段階落ち着いた構えで歩みを進められるようになると思います。

●こんな活動をしています

小学4年生から中学生を対象にしたフリースクールです。通信制高校のレポート作成指導や進捗管理を行うサポート校でもあります。フリースクールでは、午前中は学習支援の時間となり生徒さんが持参する課題に取り組みます。午後からは畑や川など集落のいろいろなところに出かけて「生きる力」「生き抜く力」を育てます。ここでの活動を通して学校の登校日数や時間数が増えたり、ふたたび登校できるようになることを目指しています。



ある日の一日はこのように時間が流れます。

活動の拠点である建物を訪れると、ちょうど教科の勉強が終わるところでした。午前中は各自が持参した課題を進めていたそうです。

午後からは集落内にある畑へ向かいました。ここでは、たくさんの種類の無農薬野菜が生徒さんたちの手で育てられています。畑に着くとすぐに水まきをしました。近くの水路でバケツを使って山から流れる水をくみ上げ、一輪車に乗せて畑まで運びます。その後はネット張りなどの整備をしました。

BREAK TIME



畑からの帰り道、集落にあるお蕎麦屋さんの横を通った時、ちょうどお店の皆さんが薪を作っているところでした。そのお蕎麦屋さんは薪を燃料におそばを茹でているそうです。「せっかくだから手伝っていこう」となりました。お蕎麦屋さんも「どうぞ」と快く受け入れてくれました。

このように、たまたま出くわした人や出来事も学習の機会となっていました。「集落全体が教室・先生」と鈴木さんはおっしゃいます。集落の人、自然などからさまざまなことを学ぶことができるのだとその言葉を実感できました。地域のコミュニティが活きている里山でできないう、フリースクールの活動です。

●参加するには。。。。

まずは、HPの「お問合せフォーム」や「公式ライン」からのお問合せをお願いします。見学や相談も日時を調整して時間をつくります。定期利用については、面談後、利用曜日をご都合に合わせて設定します。スケジュールの習慣を少しでも持ってもらうため、利用曜日を固定しています。週1日からの定期利用が可能です。利用途中での利用曜日の追加や曜日の変更も可能です。

団体からのメッセージ

日頃の雑踏や時間に追われるような生活から、ゆったりと時間が流れ穏やかな雰囲気のある里山集落で過ごすことで心身ともに安定するようになって感じています。川の流れ・音、風の音・感触、天気によって変わる雰囲気、土に触れる、栽培した作物を食べる、持ち帰って食卓に上る、など、「癒し」を感じられる環境で過ごすことは、普段の生活にも効果が波及すると思います。この環境は、他の地域に持ち出すことは出来ません。集落の住人の方々も本当に人情味があり温かい方ばかりです。今後のための充電場所になると感じます。

●こんな団体です

活動対象 | 子ども

活動地域 | 静岡県浜松市天竜区横川 下百古里地区

設立年 | 2017年

代表者名 | 鈴木浩之(すずき ひろゆき)

連絡先 | 電話：080-5674-1606 Eメール：satoyamadaigaku.s@gmail.com

ホームページ：https://peraichi.com/landing_pages/view/satoyamadaigaku/



SECTION 4 放課後の外遊びを通して自分自身を表現できる場

団体紹介 浜松学院大学

03

スマイルスポーツクラブ

小学生を対象にした、スポーツ遊びや伝承遊び(主に鬼ごっこ)を通して、運動やコミュニケーションを学びます。



<https://kirakira.n-pocket.com/smilesportsclub/>

体を動かすのが楽しい

●はじめは。。。。

子どもの放課後実態調査で「外遊びをしなくなった」ということが分かりました。半数以上の子どもが外遊びをできていない。放課後の外遊びは重要との認識があります。はじめはゼミでやっていたのですが、いまでは学生たちが主体、サークルのような感じでやっています。

●こんな思いでやっています

スポーツクラブだと特定の種目を一年間やることが多いけれどここは違います。運動が苦手な子でも「体を動かすのが楽しいな」という部分を大切にしよう。この場でスポーツを通して仲良くなる経験をしてもらって、このクラブが自分にとって大事な場所になってくれればいいかなと思っています。

スタッフの学生は高校時代からいろいろなボランティア活動をやっている子が多いです。この活動は学生たちが運営しているのですが、教えるというよりは「一緒に遊ぶ」という感じです。大学生だと「見守る」とか「困ったときに助ける」という役割を担わされてしまいますが、学生と一緒に遊んだほうが子どもは喜ぶます。学生が真剣にやると「お兄さんすごいな！」という憧れのような感情も生まれます。



●こんな活動をしています

毎週水曜日、スポーツ遊びや伝承遊び（主に鬼ごっこ）、春夏の合宿や親子で楽しめるイベントなどです。日々試行錯誤勉強しながらやっています。年間35回くらい行います。大学生13人くらいで運営しています。

おにごっこはルールさえわかればだれでも遊べるし、捕まえること逃げることなど役割があります。子どもたちにとっては役割があるから、球技のように「ボールがうまく投げられないから参加できない」ということはなく、誰もが参加できます。異学年でも学校が違って、大学生が入っても抵抗なく遊べるという不思議な魅力があるのが鬼ごっこです。

夏と冬は、希望者を募って2泊3日の合宿を行います。夏は西伊豆町の宿泊施設となった廃校で行います。東海道線、駿河湾フェリーなど公共交通機関を使って向かいます。海水浴場で遊んだり、変化にとんだ旅をしたりしています。冬は長野県の高遠で雪遊びをしています。

学生がプログラムを用意しています。学生がやってみて全部がうまくいくとは限りません。参加している子どもたちから「こうした方がいいよ」と言われることもあります。そこで修正しながらより楽しいものにしていくようにしています。それが本当の遊びだと感じています。活動の様子は大学生がLINEで報告しています。学生の発信だけではなく、保護者が当日の様子を伝えるなど親同士のコミュニケーションもLINE上であります。

いつも大人がいて「大人の言うとおりにできてよかったね」というものは、子どもは面白くないと感じます。子ども達がいろいろ想像しながら、失敗しながらやるのは、今の時代には貴重だと感じます。

ここで運動能力が伸びたというよりは、子どもたちが「学生と一緒にやるが楽しいな」と思ってもらうのが一番いいかなと思います。

学生さんたちに「大変なことは？楽しいことは？」を聞きました。

「サークルの勧誘でチラシを見て参加することに決めました。大変なことは、遊びの場なのですが守るべきことは守ってほしいと伝えることです。子ども一人ひとり個性があり、輪の中に入るのが苦手だったり、手をあげてしまったりする子がいます。そのような子にコミュニケーションを教えるのが大変だと感じます。修行のようなものですね(笑)。楽しいことは、子どもと一緒に遊ぶことです。これが一番です！」

BREAK TIME 

●参加するには。。

一般募集はあまりしていません。口コミが基本です。いきなり入るのではなく、一回やってみて次の週に正式にはいることを決めてくださいと言っています。

団体からのメッセージ

ここは遊びの場なので、子どもたちが大学生をあだなで呼ぶこともあります。遊ぶときは対等・平等、学生も子どももそれを大事にしています。

みんないい子なんです。学校でもいい子だし、親の前でもいい子になっている。そうではなくて自分の素を出せる、怒り笑ったり叫んだり、時にはぶつかってケンカするのもあってはいいのではないかと思います。自分を飾らないオープンにできる場所になってほしいと思います。

スマイルスポーツが習い事の中で一番だと言ってくれると嬉しいです。



●こんな団体です

連絡先 | 浜松学院大学教務課 学生グループ までお問合せください。

住所 | 浜松市中区布橋三丁目2番3号 電話 | 053-540-3938

SECTION 4

団体紹介

04

子どものこと・学校のこと・地域のこと、
考える・行動する・解決する会

アクティブ

障害のある子ども達への理解を深め、みんなが生きていきやすい社会づくりを目指しています。

<https://kirakira.n-pocket.com/active>

●はじまりは。。

平成15年、「発達学級（特別支援学級）」を地域に増やして欲しいという願いから、浜松市長・教育委員会に要望したことをきっかけに、発達障害や知的障害のある子どもの保護者6名でスタートしました。その後、障害のある子ども達の教育や福祉の在り方などについて学習し、その中で気付いた当事者達の「困った」を関係する窓口（教育委員会や障害福祉課など）に伝え「困った」を改善するための提案をしています。また、保護者と社会をつなぐことや、協働できることを提案していくことの大切さを強く感じ、その実践を続けています。



●こんな思いでやっています

知的障害や発達障害は、見た目にはわかりにくく、理解や共感を得られにくい障害です。発達障害の中には、知的な遅れがないために、周りの理解を得られず、辛い思いを重ねている人たちも少なくありません。障害のある子ども達が「働ける大人」に育つよう、教育と療育の重要性を訴えると共に、周りの理解と手助けがごく自然に行われ、『障害のある人達が健常といわれる人達同様に、地域社会で働き、生活しているまち、浜松』を目指して、理解を広げる活動をしています。

●こんな活動をしています

1. 会員のスキルアップ

定例会月1回（各プロジェクトから提案を出し、検討・実行・報告）、総会年1回、親達のスキルアップのための学校・療育施設・厚生施設等の関係機関見学・勉強会、発達障害支援センターとの「意見交換会」・「講演会」（不定期）、他の福祉団体と協力しての活動（福祉を考える会など）

2. 冊子の発行

「ふしぎわ〜んど」「ふしぎわ〜んど2」の発行。
発達障害のある子ども達が日常生活の中で巻き起こしたエピソードと、その時の保護者がとった対処の仕方をまとめた小冊子（1冊500円）

3. 出張講座

冊子を基に「ふしぎわ〜んどの子供達」について講演（紙芝居・お話・寸劇・グループワークを通じ、発達障がいとは・発達障がいの子ども達のエピソード・障害受容について・支援者に願うこと・保護者の願いなどを講演）

ちょっと気になる子どもたちのエピソード集

真面目すぎたり、言葉を文字通りに受け取りすぎたりして巻き起こしてしまう「勘違い」の数々…。実際に起こしたエピソードと、その時の対処法、指示の出し方のポイントや周囲が上手に関わる方法など、わが子の事例をユーモアを交えて紹介しています。

●参加するには。。。

会員登録し会費を納めて頂ければ、各行事・活動に参加できます。定例会のほかに、会員以外でも参加できる「おしゃべり会」もあります。

団体からのメッセージ

アクティブは、特別支援教育の在り方、就学相談、障がいの福祉など、いろいろな分野で『小さな声を届ける』活動をし、障がいのある子ども達への理解を深め、みんなが生きていきやすい地域づくりを目指して活動しています。

アクティブの活動にご理解とご支援をいただけますよう、よろしくお願い致します。

●こんな団体です

活動分野 | 福祉

活動対象 | 保護者・支援者・当事者

活動地域 | 全国

設立年 | 2003年

会員構成 | 正会員 9名、賛助会員 30名

会費 | 正会員 2,000円、賛助会員 2,000円

運営スタッフ | 9名 代表者名 | 浅井 陽子（あさい ようこ）

連絡先 | Eメール : active.hamamatsu@gmail.com

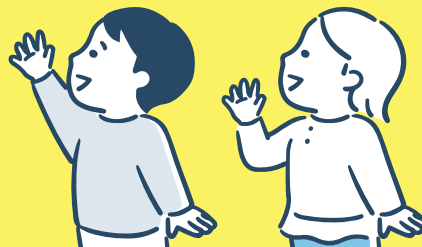
ホームページ : <http://active.hamazo.tv/>

SECTION 4 のんびり、ゆったり、自分のペースで共に育つ場

団体紹介 NPO法人

05 ドリーム・フィールド

優しい心で、共に育つことができる体験的学びの場です。



<https://kirakira.n-pocket.com/d-field/>

●はじまりは。。。

21年間教育現場にいて、不登校の子どもたちや休みがちの子どもたちと関り、学校教育の中では全ての子どもたちをサポートしきれないと感じてきました。

開校当初は「不登校」という“現象”にばかり眼が向いていましたが、子どもたちと関わるうちに「不登校」の根底にある、私たち大人の発達障がいという個性への理解不足や、社会に流れる「学校に行かなければダメ」「学校だけが育ちの場」という固定観念が、子どもたちを精神疾患に追い込んでしまっている現実を理解するようになりました。

さらに、学校教育の現場において、広汎性発達障がいや精神疾患といったものを字面の理解ではなく生きた子どもたち一人一人として理解し、それぞれにとって適切な環境を用意することのできる教員が非常に少ないことを実感するようになりました。



●こんな思いでやっています

「発達障がい」という言葉や文字情報は以前に比べて広まりましたが、“こだわりが強い”“落ち着きがない”“人の気持ちを理解するのが苦手”などそれぞれの個性や特徴を、周囲の大人や先生方が「欠点」として捉え、それを“矯正”しようと追い込んでしまうことによって、自己肯定感を奪われ2次障害として精神疾患を抱えてしまう子どもたちが非常に多く見受けられます。成人後もそうして抱えた精神疾患に悩んでいる人は世の中に溢れるほどいらっしゃいます。

自分たちの役割は、社会における不登校、発達障がいや精神疾患への偏見や固定観念を少しでも変えてゆく。誰もが人生を楽しむことができるように支えてゆく。社会全体をやさしさと思いやりに溢れた社会に変えてゆく。この3つに尽きると思っています。

●こんな活動をしています

1.フリースクール「ドリーム・フィールド」

(放課後等デイサービス・日中一時支援)

小学生から高校生まで、延べ約40から50名が在籍する、不登校生、発達障害や精神疾患をもった子どもたちのための育ちの場です。

o小中学校や通信制高校の勉強のサポート

o自由に主体的に好きなこと、やりたいことを選んで学ぶ(英語、理科、アート、アニメ、ドラム、ベース、ピアノ、ボーカル、ドラムレッスン、ギター、卓球、サッカー、野球、テニス、プール、カラオケ、スケートボード、ボードゲーム、カードゲーム、映画、工作、デジタルイラスト、ティビピア、読書、料理、プログラミング、ビリヤード、トランプ、ゲームなど)。

2.「雑貨カフェいもねこ」(就労継続支援A型 2011年開設)

社会を体験する就労継続支援事業所であり、働く場でもあるカフェ。猫ちゃんグッズ、いもねこクッキーの販売と、ドリップコーヒー、いもねこスイーツ、シェフランチが楽しめる、ゆったりとした癒しのカフェです。

3.「工房いもねこ」(就労継続支援B型 2013年開設)

いもねこクッキーやスイーツの製造など、地道な作業が合っている子どもたちのための就労継続支援事業所です。

4.「いもねこショップ」(2014年開設)

猫ちゃんグッズ、いもねこクッキー、駄菓子の販売と、水出しコーヒー、いもねこスイーツ、軽食が楽しめます。(コロナ禍のため現在はテイクアウト)

5.「ちびねこ」(2021年開設)

猫ちゃん絵本、いもねこクッキー、オリジナルグッズの販売、グループや遠州焼きも提供しています。(コロナ禍のため現在はテイクアウト)

6.教育相談

随時教育相談を実施。年間約50名以上、無償の教育相談を受けています。

7.社会的な活動

子どもたちに温かい未来を残すために、戦場体験者の声を記録する活動、リーマンショック時には炊き出しなど、不登校や発達障がいなどへの理解を広げるためのバリアフリーコンサートなど、さまざまな活動をしてきました。これからも子どもたちの未来のために、時には子どもたち自身が主体となりながら続けてゆくでしょう。

●委託事業、補助金・助成金事業など

▶放課後等デイサービス「ドリーム・フィールド」

▶就労継続支援A型事業所「雑貨カフェいもねこ」

▶就労継続支援B型事業所「工房いもねこ」

▶浜松市、磐田市、袋井市、掛川市日中一時支援事業

▶静岡県より、ジョブトレーニングコーチ事業を受託

●参加するには。。。

随時講師やお手伝いいただける方を募集しています。基本的に「ボランティア」は募集しておりません。お電話でお問合せ下さい。

団体からのメッセージ

不登校、発達障がい、子育て等のお悩みがあれば、遠慮なくご相談ください。

●こんな団体です

活動分野 | 子どもの健全育成、福祉、社会教育、文化芸術、水環境、平和

活動対象 | 子ども、青少年、障害のある人

活動地域 | 静岡県西部

設立年 | 2003年5月

会員構成 | 30名 40代~60代

会費 | 正会員 10,000円、賛助会員 5,000円

運営スタッフ | 常勤スタッフ 13名、非常勤スタッフ 10名

総事業支出額 |

150,326,890円 ('20年度)

134,494,881円 ('19年度)

127,606,600円 ('18年度)

代表者名 | 大山 浩司(おおやま ひろし)

連絡先 |

住所 : 〒435-0013 浜松市東区天竜川町201

電話 : 053-422-5203 FAX : 053-453-9663

Eメール : dreamfield.stuff@gmail.com

ホームページ : https://www.imoneco.net/

ブログ : http://dreamfield.hamazo.tv/

Twitter : @imoneco

SECTION 4 自然に寄り添い、守り・育てる

団体紹介 NPO法人

06 ラブ・ネイチャーズ

豊かな自然をいつまでも守って行くために、専門性を活かして活動しています。

https://kirakira.n-pocket.com/love_nature/

自然観察会やエコツアー、出前講座などを通して、楽しみながら、自然のすばらしさ、厳しさを学び、自然の大切さを子どもたちへ伝えています。

●はじめは。。。

浜名湖花博のためのボランティアリーダー養成講座がきっかけで出会ったメンバーが、自然への興味や特技・資格を活かして活動して行こうと、団体を立ち上げました。そして、継続して事業を行い、自然のことをもっと多くの人に伝えて行くために、NPO法人となりました。



●こんな思いでやっています

日常生活において自然とふれあう機会の少なくなった現代において、自然とふれあうための様々なソフトを提供し、体験を通して自然の大切さ・素晴らしさを伝え、自然環境の保全に寄与し、ストップ温暖化に貢献することを目的に活動しています。

豊かな自然を堪能

遠州灘海浜公園と協働で実施している、自然楽校「E(い)～(～)na(な)クラブ 自然とともだちコース」に参加しました。この日はバードウォッチングや畑作業などが行われました。バードウォッチングは公園や川辺をまわり、メジロやシジュウカラなど約15種類の鳥を観察することができました。畑作業ではジャガイモの苗植えや、菜の花でリースづくりなどをしました。この畑は公園の枝などを肥料にして、無農薬で栽培をしているそうです。ここでとれた野菜を使ってカレーなどの料理を作ることもあるそうです。(2022・2・27 K取材)

BREAK TIME 

●こんな活動をしています

1. 樹木名板

樹木を調査したのちにその名板を作製して、学校や公園などの木に取り付けます。樹木に親しんでもらうために、できるだけ読みやすく、分かりやすい形の名板をつくっています。

2. エコツアー

巨樹や棚田など各地に残る自然や里山を案内します。

3. 自然体験

自然あそびや各種アクティビティを通して、五感を使いながら自然を楽しんでもらっています。

4. 自然学校

現在、遠州灘海浜公園と協働で連続講座自然楽校

「E(い)～(～)na(な)クラブ」を年間10回程度行っています。

初めて参加する児童を対象とした「自然とともだち」コースと継続的に参加して畑の作業などある程度できる児童を対象とした「こどもナチュラリスト」にチャレンジコース」の2コースがあります。4月から毎月1回程度で開催をしています。

5. 食農講座

「食べることは生きること」をテーマに、自然にそった農業体験や食育体験活動に取り組んでいます。

6. 自然保護

団体設立当初から継続して、絶滅危惧種「シラタマホシクサ」を守り育てています。

絶滅危惧種ヒメマイトトンボの生育調査・保護なども行っています。

7. 出前講座

学校や市民協働センター等の依頼を受けて、自然体験活動・ネイチャークラフトなどの出前講座も行っています。

●活動実績

- ▶平成16年6月 NPOボランティア活動奨励賞
(静岡県社会福祉協議会)
- ▶平成22年4月 自然ふれあい部門 環境大臣表彰
- ▶平成23年11月 みんなで節電！市民協議会 浜松市市民会議
- ▶書籍出版 「子供の花遊び」 「知って親しむ校庭の樹木」



●参加するには。。。

自然楽校に参加する

主催する遠州灘海浜公園事務所のウェブサイト等でご確認ください。

イベントに行く

自然観察会や体験講座など、イベントへの参加者を募集しています。

会員になる

随時メンバーを募集しています。

特に、静岡県（または浜松市）環境学習指導員の資格を持っている人は大歓迎です。資格をもっていない方も入会可能です。入会后指導員の資格を取得したい方にはその案内をします。



団体からのメッセージ

自然・子供・遊び・大好き人間の集まりです。子どもにも大人にも、自然との出会いを広げて行きたいという思いで活動しています。季節ごとの変化や成長に、“いのち”を感じられる自然とのふれあいを大切にしています。

●こんな団体です

活動分野 | 社会教育、河川・湖沼・海、森林里山、温暖化防止・自然エネルギー、子どもの健全育成、観光、食・農林水産

活動対象 | すべての人

活動地域 | 浜松市内 静岡県西部地区

設立年 | 2001年3月（2005年6月法人化）

会員構成 | 20名 20～80代

会費 | 1,000円/年、入会金 1,000円

運営スタッフ |

20名（ほぼ全員が静岡県（または浜松市）環境学習指導員の資格を持った、「自然大好きナチュラリスト」です。

総事業支出額 |

2,238,702円（'20年度）

3,233,365円（'19年度）

3,150,262円（'18年度）

代表者名 | 理事長代行 佐藤 正孝（さとう まさかた）

連絡先 |

住所 : 〒431-1304浜松市北区細江町中川6068-1

電話 : 053-522-1792

Eメール : love.natures@tokai.or.jp

ホームページ : <http://www3.tokai.or.jp/natures/>

SECTION 4

団体紹介

07

自分らしさを創造し、幸せな人生をおくる
ことができる社会の実現を目指す

株式会社コンテ

臨床心理学に基づいたカウンセリング。子どもの「見て、考えて、カラダで行動する」力を育て、のびのびとした発達・成長をサポート



<https://kirakira.n-pocket.com/cont-e/>

●はじめは。。。

困っている人を助けたいし、心理相談や発達相談をもっと身近にしたい。「困っているのだけれど聞いてくれる？」のように、身近なものに心理相談発達相談がなったらいいなと思って始めました。

もともとは精神科病院で働いていました。その時、発達支援のことを学んで、支援方法を知らなくては行けないなと感じ、発達支援相談センターに入ったんです。

そこで、まだまだそんなに認知されていない、支援方法も広がっていないということが分かりました。公的などより、柔軟にやっていきたいなと思います。困っている方の声「もっとこういうこと無いの?」「こうしてほしい」とかを拾っていききたい。

その要請にこたえればいいなと思い、より柔軟対応ができる株式会社になりました。支援方法は教科書に載っていることや自分の経験したことでアドバイスをするんですけど、それに当てはまらないこともある。不思議に思ってそこで視覚支援にたどり着きました。

やっぱり苦手を克服するという取り組みも必要なんではないかなと。伸びないかもしれないけど、苦手なところを知り、苦手をどうやって補うのかを考えるのは必要なことなのではないかなと思います。だからやってみようと思いました。

●こんな思いでやっています!

目のトレーニングをして、苦手を知って「目の機能のこういうところができていないから、そこを育てましょうね」「目が動いていないからそういうことができないよね、だから眼を動かしましょうね」ということをやっています。目は筋肉でできているから、動かせるところは動かせるようにしましょうということです。

まだまだできることはたくさんあるのではないかなと思います。

「言ってもだめだから」と「環境で調整しましょう」のように、援者があきらめちゃっていることもある。そういうのが悔しいところでもあります。こどもの可能性を信じて、まだまだできることはあると感じます。

課題をあたえてそれをこなすことの積み重ねで自信がついていくものだと思います。できなくてもサポートしてやってみよう。山をつくって、それを乗り越えない限り自信につながらないので。

でもそれは子どもにとって苦しいことなのですが、そこはユーモアをもって乗り越えさせようと思います。課題がすごく重要です。その子に合わせた課題を設定し、そこに笑いとユーモアで乗り越える。課題づくりは大変で、お金もかかる。時間と手間をかけて、その子にあった課題を作り出していきます。

●こんな活動をしています

1. カウンセリング「みんなの心理相談室cont-e」

心についての悩みに、臨床心理学に基づいたカウンセリングを提供

2. ビジントレーニング「目とカラダの発達教室cont-e」

子どもの「見て、考えて、カラダで行動する」力を育てる、「ビジョン・トレーニング」。

それぞれの認知&運動機能の特徴に応じたプログラムを提供

▶グループトレーニング（レッスン時間：50分）

対象年齢：幼児、小学生、中学生、高校生

▶個人トレーニング（プライベート・レッスン）

レッスン時間：30分～40分

対象年齢：幼児、小学生、中学生、高校生

3. 職場のメンタルヘルス・サポート

企業と契約を行い、従業員のメンタルヘルスのサポート実施

●参加するには。。。

トレーニングを受ける

- ・グループトレーニング：子どもの課題・目的などに応じたクラスを提案し、希望される日時と調整します。
- ・個人トレーニング：希望されるレッスン時間の予約を事前をお願いします。

団体からのメッセージ

困難を抱えた子どもたちの大変さを汲み取って、その子どもたちに必要なものを届ける。子どもの発達をあきらめない！

こどもが主役の教室であることを伝えたいです。

困難を抱えた子どもたちをより理解するつながりや、身につけさせたいスキルを育てる専門性を高め提供していくことが使命だと思っています。



●こんな団体です

活動分野	保健・医療・福祉（健康） 社会教育（生涯学習）子どもの健全育成（子育て）
活動対象	子ども、おとな
活動地域	浜松市内など
設立年	2019年
代表者名	桐生 大輔（きりゅう だいすけ）
連絡先	電話 : 080-9113-2275 電話受付 : (月)～(日) 9:00～21:00 Eメール : ウェブサイトの「お問い合わせ」より ホームページ : https://cont-e.com/contact/



<https://kirakira.n-pocket.com/manabinoiroha/>

●はじめは。。。

代表は、夜間定時制高校の教員だったのですが、その時のスクールカウンセラーさんに「9割の生徒が発達障害の疑いがある」といわれました。しかし専門的な協力は得られない状況だったので、教員間で知恵を出し合っ

て取り組んだ経験が、この活動の始まりです。例えば、こんな支援をしました。すべての教科の授業の初めに配布されるプリントを「プリントを半分にきれいに折る」ということです。手先が不器用なことが原因で、きれいに片づけられない。勉強しようと思ったときに、プリントがぐちゃぐちゃになってやる気が起こらない、というようなことを改善するためです。ただ、やらせるだけでなく、授業の5分間を必ず充て、キチンと来ているか確認したり、やり方が上手でない生徒には折り方の手順も指導したりしました。

これまでパートをしていた子はパートのまま、無職の子は無職のまま卒業していつてしまったのですが、そのような工夫などが功を奏して、生徒の様子は激変していきました。退学者は50%から5%に減り、進路は進学・正社員が0%から90%になりました。

このような経験があって、もっと幼少期や小学生など子どもたちから見ていかないといけないのではないかと思います、仕事を辞めて2012年に立ち上げ、今年（2022年現在）で10年になります。

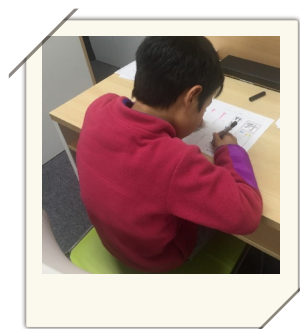
●こんな思いでやっています

「学びのいろは」は発達障がい、軽度知的障がい、不登校などの理由で、学習が遅れがちな子どもを対象とした学習塾です。発達に課題があっても、「通常級に異動したい」「高校に進学したい」「就職し、自立して生きていきたい」そうした願いを支えています。今一番入れているのは軽度知的障がいや境界知能の子どもの支援です。

塾では勉強はもちろんのこと、社会に参画していくときに必要なふるまい方も教えています。

子どもたちが本当に望んでいることは「友達が欲しい」ということではないかと思えます。そのニーズと“社会に参画するときに必要なふるまい方”を身に付けておくということは、一見して関係のないことのように思われるかもしれませんが、でも、「ありがとう」「遅れてすみません」を自然と言えたり、自分の順番を守れたり、プリントをきれいに半分に折るといったふるまい方ができることで、子どもたち同士の輪の中に安心して迎え入れてもらえるようになるようです。そうすると、高校に入ってから友達ができていくんです。それは、生徒にとってうれしい出来事で、学校をやめないし、がんばれる。高校で友達ができると、就職したあと嫌なことがあっても、友達で集まって嫌なことを忘れて「また、明日から頑張ろう!」となります。

また、学習支援の先の「就労」というところまで考えています。企業はこういう人を受け入れるということイメージしているので、もしかしたら厳しく見えるかもしれないけど、ここでの取り組みは1週間に数時間だけなので、その時は生徒に「全力でやろう」と言っています。



ゆるすばバドミントン

BREAK TIME

代表は「ゆるすばバドミントン」に事務局としても関わっています。発達障害、不登校児、コミュニケーションや運動が苦手な家族が対象だそうです。こちらでもただバドミントンをするのではなく、バドミントンの動作をきっかけに、コミュニケーションを学んでいます。毎月1回の活動で、スタッフは14~15人、毎回20名から30名の参加者があるそうです。毎回、事前に1時間、事後に1時間のミーティングを行い、プログラムの確認や振り返りなどを行っています。

●参加するには。。。

スタッフのアルバイト募集があるときはHPでお知らせしています。

●団体からのメッセージ

療育手帳（知的障がい）取得者や精神手帳（発達障がい）取得者が全日制高校へ進学、健常者と変わらず学校生活を過ごせることを目指して活動しています。

●こんな活動をしています

1. 学習支援（小学生）

▶ 国語・数学（算数）・英語・理科・社会

月～金17:00～19:00 土 16:00～18:00

▶ 先生1人に対して、生徒2～4人まで

▶ 入学金11,000円（税込み）初回のみ

▶ 月謝 20,900円（税込み）45分×週2

●こんな団体です

活動分野 | 子どもの健全育成（子育て）

活動対象 | 子ども（小学生・中学生）、障がいのある人（発達障がい・軽度知的障がい）

活動地域 | 浜松 設立年 | 2012年 会員構成 | 2人

代表者名 | 寺岡 勝治（てらおか しょうじ）

連絡先 | 電話：053-453-6801 Eメール：gakujikai@rx.tnc.ne.jp
ホームページ：https://manabinoiroha.net/

子どもサポーターズクラブ

外国にルーツを持つ子どもたちの未来づくりを支援


<https://kirakira.n-pocket.com/ksc/>


●はじめは。。。

KSCが発足した2009年当時は、外国人労働者が急増する中で親と共に暮らす子どもたちの教育問題が深刻化してきました。日本語能力の不足から、日本の学校の勉強についていけなくなったりする子どもも多く、不就学に陥る児童、生徒の存在が問題になっていました。

そうした子どもたちの支援に地域住民が関わっていくことが必要だと、HICEの呼びかけで発足したのがKSCです。2008年10-12月に開講されたHICE主催の「シニアから始める日本語ボランティア養成講座」の修了生が、このままで終わらず、何か実践して役立ちたいという思いで、浜松市内の主婦十数人でスタートさせました。



●こんな思いでやっています

“外国にルーツを持つ子どもたちの未来づくりを支援したい”、という設立時の強い思いを今も引き継ぎ活動を続けています。彼らは日本語が分からないために学習が遅れがちです。そんな子ども達の宿題や勉強の手助けをしながら、学習をやり遂げる粘り強さや楽しさを共有できたらいいなと思っています。

●こんな活動をしています

1. 本読み、音読、書き取り、筆順などのサポート
2. 学校から出される各種宿題（プリント問題等）のサポート
現在、3箇所の小学校で活動を行っています。

▶ 佐鳴台小学校

対象：小学1年～6年生の希望者

現在の対象児童数：37名

(国籍：フィリピン、ブラジル、ペルー、中国等)

活動内容：学校のクラブ活動の一環として、国語、算数を中心に週2回（火、金曜日）の放課後勉強会を実施。担任の指示のもとに、宿題や遅れた学科のフォローをしています。

▶ 城北小学校

対象：小学1年～6年生の希望者

現在の対象児童数：5名

(国籍：フィリピン、ブラジル、スリランカ、エチオピア)

※担任の指示のもと、同じクラスの子供たちとは離れ別室で一人一人の学習支援（全教科、マンツーマン方式）を行っています。

▶ 浜名小学校

対象：小学1年～6年生の希望者

現在の対象児童数：35名

活動内容：週2回（月曜日、水曜日）の放課後勉強会を実施

※国語、算数を中心に担任の指示のもとに

教科学習支援

※KSC以外の他のメンバーとの共同支援

●参加するには。。。

学習支援者になる

HICEが主催する日本語ボランティア養成講座の修了者を中心とし、それに準ずる講座の受講者、教員資格を有する方で会員になることが必要です。入会希望者はHICEの窓口を通して、あるいは知合いの会員を通してご連絡下さい。見学可能です。

団体からのメッセージ



外国にルーツを持つ子供たちにとって、日本語は日常生活ではもちろん、学校生活の基盤になるものです。その一生の思い出になる学校生活が楽しくなるよう、子ども達に寄り添い勉強に対するやる気を引き出してくれるボランティアを募集しています。自身の子育て経験や各種講座を通して見つけた知識を生かしながら、子供達が日々成長していく姿に関わって行きませんか。興味のある方、ぜひご連絡ください。いつでも見学可能です。



●こんな団体です

活動分野	国際協力（多文化共生・語学） 子どもの健全育成（子育て）
活動対象	在住外国人
活動地域	浜松市内全域
設立年	2009年1月
会員構成	約30名（20～70代） 主婦、社会人、リタイア組など、様々な年代の方が活躍されています。
会費	年500円
運営スタッフ	役員5名（会長、幹事、会計）
代表者名	岩田 正夫（いわた まさお）
連絡先	浜松市外国人学習支援センター(U-ToC)事務局まで問い合わせて下さい。（電話 053-592-1117）

SECTION 4

団体紹介

10

家族の“えん”をつなぐ

地域支援団体はまはっぴー

こども食堂やフードバンク活動、子育て・不登校などの相談支援を通じて笑顔を届ける活動を行っています！


<https://kirakira.n-pocket.com/hamahappy/>


●はじめは。。。

18歳の時に父親を亡くしたことが大きな転機となりました。その時に精神的にも経済的にも苦しい中、周囲の人に支えられ学業が続けられ仕事にも就くことができました。今の自分があるのはたくさんの方々のお陰で、その恩返しをしたいという純粋な気持ちがあります。

また、以前に児童養護施設にいる虐待を受けた子どもの心理支援をしていました。様々な事情で親子が一緒に暮らせない、幼い時から施設に入っている子ども達と接する中で、問題が起こってからのケアも大事ですが、そうなる前に予防的に地域のつながりを深め、気軽に人とつながることができる場所が必要だと感じていたのがこの活動を始めたきっかけです。



●こんな思いでやっています

近代化、核家族化のなかで、地域コミュニティが希薄となりお互いうまくコミュニケーションがとれないが増えてきていると思います。仲良くしたり大事にしたい気持ちがあっても、それが正しい形で伝わっていかなかったり、もつれたりしています。切れてしまったり、もつれてしまった家族のつながりを、再びつなぎなおしたりほぐしたりすることを丁寧にやっていきたいと考えています。

地域を一つの家族と捉え、家族団欒のみんなの居場所を作りたいという思いで活動がスタートしました。そのため、子どもだけではなく誰でも来られる場所（多世代交流拠点）という意味で「家族食堂」と呼んでいます。

フードバンクを立ち上げたのは、近年課題となっているフードロス削減をしたいという思いからです。企業では賞味期限が近くて廃棄している食品がたくさんあると聞きます。それを受け入れ必要な方に届けることで地域支援にもなる。フードロス削減と地域支援と二つの課題が一気に解決する、持続可能な社会を創っていく上で大切な活動だと考えています。

●こんな活動をしています

1.はまはっぴー家族食堂（こども・地域食堂）

家族食堂は毎月1回から2回。孤立の防止、安心できる居場所、地域コミュニティの創生など、家族団欒をテーマに活動しています。

2.フードバンクはまはっぴー（食品ロス削減）

フードロス削減、食を通じた支援、困窮支援を目的に、各企業や団体、個人の方々からの寄贈された食品を必要な方々に届けています。

3.専門家による相談支援活動（子育て・不登校など）

はまはっぴーのスタッフ・会員には臨床心理士、公認心理師、教員、保護司、社会福祉士、看護師など専門家が多数在籍しています。子育てのこと、福祉のこと、健康のこと、心理のこと、様々な分野の専門家による相談支援を行っています。

4.子育て支援広場

互いの悩みや苦勞を共有したり、アドバイスをもらったりすることのできる憩いの場を開放しています。

●団体からのメッセージ

ここは誰が来てもいい場所。ここに来たらほっとする、ここに来たら何とかなると思える場所にしていきたいと思っています。みんなの居場所。ここで家族団欒を味わってほしいというのが私たちの願いです。私自身がいろいろな人に助けられました。その恩返しという思いで、子どもたちを支援しています。その子どもたちが、大人になったときに次の子どもたちを支援していく。恩返しも大事だけど、一歩進んで「恩送り」。たすかった人が次の人をたすけていく。そのたすけあいの輪が次の世代につながってほしい。それが持続可能な社会ということにつながっていくと思います。

●参加するには。。。

ボランティアで加わりたいときは、HPの問い合わせか、フェイスブックページなどから問い合わせをお願いします。

家族食堂やフードバンクなどは公式ラインでお知らせすることが多いです。こちらもHPで登録できます。寄付や物品の受付も随時行っています。皆様からの温かな応援をお待ちしています。

●こんな団体です

活動分野	子どもの健全育成（子育て） 保健・医療・福祉（健康） 社会教育（生涯学習）
活動対象	一般 子ども
活動地域	市内全体 設立年 2018年
会員構成	平野 大心（ひらの だいしん）
連絡先	電話 : 053-586-6492 Eメール : info@hamahappy.com ブログ : https://hamahappy.com/



SECTION 4

誰でも気軽に参加し、ネイチャーゲームを楽しめる会です。

団体紹介

11

浜松ひよっこ シェアリングネイチャーの会

自然に触れ合うきっかけづくりであるネイチャーゲームを通じて家族のコミュニケーションを深めていきます。



<https://kirakira.n-pocket.com/hamahiyo/>

●はじめは。。。

静岡県浜松市にて、気軽にネイチャーゲームを楽しむために設立された地域の会です。若い人がネイチャーゲームに興味を持って、敷居が高く見えてしまいうるうることができない雰囲気がありました。そこで「だれでも来ていいよ」という場を作ろうと思ったのがきっかけです。

●こんな思いでやっています

現在の生活の中では自然のリアルな体験が少なくなっています。自然から学べることを活かして、その子らしさを発見してもらいたいです。家族も体験を通して子どもの「らしさ」を発見してほしいです。この体験から「虫好き」や「植物好き」になっていく子どもが多いです。

ネイチャーゲームは「体験」第一なので答えがありません。その体験を家族や周りの人たちと共有してコミュニケーションをとってもらおうということを大切にしています。回数を重ねていくと、子ども同士のコミュニケーションも取れるようになってきます。普段はコミュニケーションが苦手な子ども、このような体験を通じて得意になってほしいと思います。

私たち自身が楽しんでやらないと、子どもたちも楽しめません。参加する保護者も含め大人たちが楽しむことも大切にしています。

●こんな活動をしています

石人の星公園（遠州灘海浜公園）、静岡県立森林公園森の家でネイチャーゲーム、ナイトネイチャーゲームなどを委託事業として行っています。

実際に森林公園森の家で行われたネイチャーゲームの一つを紹介します。

2, 3人で一組になり、一人は目隠しをします。残った人は周りにあるお気に入りの木を見つけてそこまで誘導します。目隠しされた人は手で木を触りその木の特徴を手の感触で覚えます。もとの位置に戻り目隠しを外して、どの木だったのかを手の感触を基に探すというゲームです。

この他には、佐鳴湖公園などで、気軽にネイチャーゲームを楽しむ自主企画を実施しています。

ネイチャーゲームとは

BREAK TIME

自然に触れ合うきっかけづくり。キーワードは「気づき」「分かち合い」です。自然の中でいろいろな気づきを得てそこから興味をもってもらう。そういった自然との触れ合いの導入を「ゲーム」という形で体験します。更に、自分の体験を周りの人と「分かち合う」ことで感動を深めることが出来ます。五感を使って、自然への興味を深めてもらおうという活動です。

●参加するには。。。

ネイチャーゲーム、ナイトネイチャーゲームに参加する

石人の星公園（遠州灘海浜公園）、静岡県立森林公園 森の家で行っており、各会場のウェブサイト等で情報発信していますので、各サイトから申し込んでください。

ひよっこの会の自主企画に参加する

佐鳴湖公園などで行いますが、当会のフェイスブックページでその都度、情報発信していますので、ご覧ください。

ボランティアとして参加する

おとなの方でボランティアをやりたい方の見学やお手伝いも大歓迎です。ネイチャーゲームのリーダーになりたい方には養成講座のご案内もしています。



団体からのメッセージ

自然の中で気づきを大切に、楽しく活動しています。自然の中でどうやって遊んだらいいかわからない人のためのきっかけづくりになったらいいと思います。

●こんな団体です

- 活動分野 | 森林里山
- 活動対象 | こども(幼稚園年中くらいから小学生とその保護者)
- 活動地域 | 静岡県内西部地域(浜松市が主)
- 代表者名 | 新野 忠密(にいの ただみつ)
- 連絡先 | 電話番号: 090-9337-5879 (新野)
Eメール: hamahiyo16@gmail.com

(HP) <https://www.facebook.com/hamahiyo> (facebookページ)

絵本を中心とした地域の交流の場

えほん文庫

絵本の貸し出し、お話を開催しているミニ図書館


<https://kirakira.n-pocket.com/ehonbunko/>


●はじめは。。。

幼い頃、叔母の家には図書館から家庭文庫用に貸し出しを受けた本がたくさん置かれ、そこで子ども達が自由に本を読んだり借りたりしているのを見て、子育てをする中でその様に子ども達に読み聞かせをするような夢を持ちました。

そこで、浜松市主催の「読み聞かせボランティア養成講座」に参加したり、子育て中に集めた絵本250冊の他、浜松図書館からの本も活用できるホールのような空間を夫の協力を得て自宅に併設する計画もたて、温かみのある広々とした家庭文庫を開設する準備を進めていました。

ところが自宅が完成し、その直後に生まれてきた第3子がダウン症との診断を受け、とても落ち込みました。何も手につかなくなってしまい、ただ涙が流れる日々をすごしていました。

そんな折、家庭文庫への助言を受けていた友人からの励ましがあり、気持ちを切り替え自身の夢でもあった家庭文庫のオープンに向けた準備を進めることができました。

色々な方達のお力添えと、第3子の面倒は兄姉がお手伝いしてくれるなど家族のサポートを得て、暖かい空間の中に「えほん文庫」をオープンすることができました。



●こんな思いでやっています

えほん文庫では子育てで悩んでいる多くのママたちの心安まる居場所になってほしいと思っています。障害のあるなしに関わらず、色々なひとたちが集える場になってほしい、そして「その子その子にあった絵本を届けたい」という思いで絵本を集めているうちに、絵本が既に5千冊に増えています。

「読み聞かせの会・この本だいすきの会（浜松支部）」、「わらべうたの会」などの他にも、ママたちの声を受けて、絵本がいろいろなつながりを作ってくれています。子育てしているママに寄り添いたいという思いの中、相談にのったり仲間を紹介したりしている中で、この「えほん文庫」に次々と色々な仲間が集まってくるようになり、「赤ちゃんのママの会」「不登校の会」「発達を考える会」「ダウン症のあるこどもの会」などが発足してきました。

心配を抱えていたママが笑顔になって帰られるのがうれしく、それがモチベーションとなり、やっていてよかったと思える活動に繋がってきています。



●こんな活動をしています

1.お話し会

毎月第4金曜日11時から30分間

2.絵本の貸出

毎週、木曜日の午後15時～17時と、金曜日午前10時～11時半まで

3.コンサートの開催（現在はコロナの関係で休止中）。

●参加するには。。。

▶絵本を借りる。

毎週木曜日・金曜日の開館時間に、えほん文庫にご来場ください（コロナ対応などで休館していることもありますので、毎回ホームページでご確認ください）

▶イベントに参加する。

えほん文庫のブログからお申し込みください

医科大学や、医療系の大学で、医師、看護師、助産師さんを目指している学生さんたちに「ダウン症のある子どもの母親」として授業をして、お話する機会もあり、このような講演活動も続けていきたいそうです。

団体からのメッセージ



絵本を中心に様々な人が集まり、また子育て中のママを応援する場として、絵本のある豊かな時間を過ごしてもらいたいと思っています。

●こんな団体です

活動分野	子どもの健全育成（子育て）
活動対象	子ども 一般（子育て中の方など）
活動地域	市内全域
代表者名	大村 由実（おおむら ゆみ）
連絡先	電話 : 053-439-3810
	Eメール : mail@ehonbunko.jp
	HP : http://www.ehonbunko.jp/

活動報告書 2021

発行 2022年3月

発行者：

認定NPO法人 浜松NPOネットワークセンター
〒432-8021 静岡県浜松市中区佐鳴台3-52-23
TEL&FAX 053-445-3717

デザイン：

ディマス・プラディ



活動報告書 2021